

シルクロードと唐帝国



[シルクロードと唐帝国_下载链接1](#)

著者:森安 孝夫

出版者:講談社

出版时间:2007-2-17

装帧:单行本

isbn:9784062807050

イメージ先行のシルクロード観を覆す

騎馬遊牧民とソグド人が世界を動かした

シルクロードとは、単なる「東西交易路」ではなく、突厥、ウイグル、チベットなど諸民族が入り乱れる激動の世界史の最前線だった。近年注目の「ソグド人」とは何者か。唐は漢民族の王朝なのか。中央ユーラシアの草原から、西洋中心史観と中華主義の克服を訴える。

■騎馬遊牧民の視点から、日本人の歴史観を問い直す！

シルクロードは、単なる「ロマン溢れる東西交易路」などではなく、政治・経済・文化交流、そして戦争の現場でした。この「シルクロード地帯＝中央ユーラシア」の歴史を知らずに世界史の大きな流れは理解できません。本書は、草原を駆けた騎馬遊牧民集団と唐王朝の興亡を通して、「世界史の見方」を大きく転換します。「民族」とは？「国家」とは？を論じた「序章」は必読です！

■唐は漢民族だけの王朝ではなかった！「中国」と「民族」への新たな視角

西洋中心史観も中華主義も、広い意味の「民族主義」である。本書のねらいは、民族主義的な歴史の「捏造」に警鐘を鳴らすことでもある――と森安氏は述べています。世界帝国・唐の建国を担ったのは、実はどんな人びとだったのか？そもそも「漢民族」の実体とは何なのか？「中国」「民族」そして「国家」に対する見方が変わります。また、こうした視点による歴史叙述は、ヨーロッパでも中国でもなく、日本でこそ可能なものなのです。

■近年注目の「ソグド人」とは？歴史の中に姿を消した人びとの足跡を追う

前近代ユーラシアの交易のみならず、政治・軍事など随所に姿を現し、その後、歴史の中に消えて行った「ソグド人」に、近年、注目が集まっています。本書では、最新の研究成果をふまえて「ソグド＝ネットワーク」ともいうべき彼らの活動を解明。また、音楽や歌舞、唐詩、さらに奴隸売買など、さまざまな局面から唐代のユーラシアを生き生きと描写しています。

作者紹介:

森安孝夫，1948年出生于日本福井县。东京大学博士课程修毕，其间获法国政府奖学金留学巴黎。大阪大学文学博士。历任金泽大学副教授、大阪大学教授、近畿大学教授。现为大阪大学名誉教授、东洋文库研究员，代表作有《丝绸之路与唐帝国》《东西回鹘与中央欧亚地区》，编著有《中亚出土文物论丛》《从粟特到回鹘》等。

目录: 序章 本当の「自虐史観」とは何か

第1章 シルクロードと世界史

第2章 ソグド人の登場

第3章 唐の建国と突厥の興亡

第4章 唐代文化の西域趣味

第5章 奴隸売買文書を読む

第6章 突厥の復興

第7章 ウイグルの登場と安史の乱

第8章 ソグド＝ネットワークの変質

終章 唐帝国のたそがれ

・ ・ ・ ・ ・ [\(收起\)](#)

[シルクロードと唐帝国_下载链接1_](#)

标签

海外中国研究

隋唐五代

历史

日本

唐

隋唐

文化史

史學

评论

几天之内读完了第一本日文书，361页，from cover to cover。以后日文书再也难不倒我了～～

问题意识挺有趣的

四十五章及文库本あとがき读的是文库本

书评

比较仔细地看过了，但是评论很业余，凭印象写吧。台版和陆版
台版和陆版的差别，主要在导言部分，尤其是涉及回鹘与维吾尔的关系，台版有个文库本後记，说初版受到在日维族读者的批评而重写。但总体来说陆版通顺。有些特别隐蔽的差别，比如第11页说马克思主义史学的崩坏，陆版...

八旗的這套“興亡的世界史”應該算是台灣書市人文史地部分最難以忽略的一套書吧。做為講談社的扛鼎大作，二十本光看介紹就氣勢不凡了。廣邀各方學者參與編撰的這系列，面向的是大眾，各有各的特色算是其優點。不過，對於像我這樣的愛好者有點尷尬的是，感興趣的主題多半都有深...

丝绸之路与唐帝国

1.五胡十六国时代之前，西晋文臣江统曾说，在关中（以长安为中心的渭水流域）百余万人口之中，半数为戎狄。江统此言并不夸张。东汉末年的战乱导致汉族人口急剧减少，五胡乘虚而入。经过三国、西晋之后，中国北部涌现了许多由五胡建立的政权，最终由鲜卑族的北...

由这本书的题目就能看出来，书的内容主要是讲了“丝绸之路”的诸事，而唐帝国退而求其次，居于次要地位，和它形成了从属关系，表面上讲述的突厥、回鹘、粟特等不同地区和民族矛盾比较多，少有偏重大唐王朝，但是实质上，两者互为表里，以“丝绸之路”为针，穿起了安史之乱前后...

作者通过此书，主要是想以丝绸之路作为楔子，这一条横贯东西的“线”。讲他认为的属于“中亚范围”的历史，挺特别的，以另一个视角，容易经常在以“中华中心主义史观”和“西方中心史观”经常一笔带过的地方，边缘地带，讲述历史。从而强调出他们这一派的历史研究思想——“欧...

五一节入手的讲谈社九卷本“兴亡的世界史”代表了日本史学界最新视角，看起来本本精彩，先选哪一本着实犹豫了一番，最后还是选了永远都说不完道不尽的唐帝国和丝绸之路[色]要说这日本人当初抱有建立大东亚共荣圈的企图，狼子野心之上包装着冠冕堂皇的抱负，但是凡事都有其两面...

总体感受：
从中央欧亚的角度讨论丝绸之路、唐帝国、当时的西域和北方、安史之乱、以及贯穿这一时期的粟特人活动及影响，对于习惯了中华视角看唐朝历史的小白来说，增加了看待了历史的角度和思考的维度，是很有意思也有意思的一本书。
对于书中提到的如何看待历史的观点很认同...

As a semi-popular book on the history of Tang China and its interactions and connections with among others its northern nomadic neighbors and, most importantly in this book, the Sogdians, Silk Road and Tang Empire 『シルクロードと唐帝国』 by Moriyasu Takao森...

[シルクロードと唐帝国_下载链接1](#)